

感想

## 盛岡市民集会を振り返って

齋藤弘明（労協センター事業団東北事業本部事務局長）

4月12日PM5:00、『「まちづくり・仕事おこし」を考える盛岡市民集会—協働による地域おこしシンポジウム—』（以下、シンポ）が120名の参加者を得て無事に終了しました。当日、盛岡は小雨の降る少し肌寒い日でした。参加して頂いた市民の方に改めて感謝したいと思います。シンポの内容につきましては前段に掲載されていますので、私からはシンポを企画した一人としての感想等を書かせて頂きます。

今回のシンポの企画がスタートしたのは、02年の12月でした。

センター事業団で取り組んでいる全国縦断「仕事おこし」シンポを岩手県でも開催しようという声は以前からありました。目的としては、岩手県では労協・高齢協共に十分市民に認知されているとは言えず、私たちの存在と運動・活動内容を知って欲しいこと。地域福祉事業や生活総合産業を展開していく上で、労協・高齢協単体では活動に限界があり、多くの市民が労協に参加して欲しいこと、広く様々な活動をしている団体や個人とネットワークを作りたいこと、労協法の必要性を訴えること等々が上げられており、これからの協同労働を地域に展開するにあたって開催の必要性は感じていましたが、なかなか動き出せない状態でした。

実際に動き出したのは、02年の4月13日に仙台で同様のシンポが実施され、東北縦断開催の第2弾の場所として盛岡で開催することがセンター事業団の東北事業本部会議で決り、そのことが盛岡シンポ開催準備への後押しとなりました。

年が明けてシンポの具体的な企画作りが検討され、今回のシンポは岩手高齢者福祉生活協同組合と共催することになっていましたので、当初の企画は「福祉と健康」に焦点を当て、高齢者問題を通じて介護福祉や地域・仕事おこしを考える内容でした。

ほぼ内容が決まりかけ、NPOの人に企画内容の相談と参加のお願いに行きました。その際に、今地域で求められているのは「仕事おこし」であり、多くの方に参加してもらいたいなら、「仕事おこし」の面をダイレクトに訴え、そこから地域問題を考えてみたほうがいいでしょうとアドバイスを頂きました。このことで、今回のシンポの内容が「地域における協働と仕事おこし」に決り、企画が煮詰まりました。

この後から、記念講演の講師やパネリストの要請していくこととなりますが、講師やパネリストには岩手県で実際に活動している人ということにしました。その方が講師やパネリストの話を参加する市民が身近に感じ、内容が地域に則したものになるか

「まちづくり・仕事おこし」を考える盛岡市民集会

らです。しかし、センター事業団としては繋がりやネットワークはほとんど無く、様々な人や団体と相談することで講師やパネリストを紹介され決まっていきました。盛岡シンポ成功の要因の1つとして、講師の山田先生はじめパネリストの高家さんや高橋さんが岩手県でも著名な方であったことが上げられます。

シンポ後の話を少しさせて頂きますと、感想文の中には「山田先生の講演は岩手の実例が上げられて分かり易かった。」(40歳代・男性)、「各分野で情熱を持って、問題意識を持って輪を広げようとしている方々の話に接し、またご苦労話に感じ入りました。」(50歳代・男性)、「若い人がもっと参加できるようにしたら、もっと良かった。」(20歳代・女性)、「パネリストの方の情熱には感服しました。」(60歳代・女性)等々。また、多くの人の話をもっと聞きたいとの感想が多数に登り、岩手県での第2弾シンポを開催して下さいとの意見も寄せられました。

また、自分たちも活動したいが方法や運営の仕方が分からないので労協のことをもっと詳しく教えて欲しいと、シンポ後事務所に訪ねてきた参加者もいます。

当初の目的である、労協・高齢協を知らせること、輪を広げること、多くの市民に参加を呼びかけること等々は達成できたと思います。しかし、ここで満足するのではなく、知り合えた人々や団体と繋がりを作りながら進んでいくことが大切ですし、これからの私たちの運動や活動で本当に輪が広がっていくことになると思います。これからの

展開が楽しみです。

最後に私自身の感想としましては、この準備期間の実質2ヶ月(03年2~3月講師の要請や参加の呼びかけの時期)は非常に多忙ではありましたが、充実したものでした。仕事の関係でオーナーや利用者と話すことは多々有りますが、業務中心の話になってしまいがちです。今回のシンポではまったく新しい人と日々出会い、私の知らなかった地域のお話が聞けたり、私たちの運動に対する意見を聞くことができましたし、賛同してくれた人からまた次の人を紹介され、人の輪が広がっていくのを実感しました。今までの私が仕事中心の人としか話すことが無かった自分自身の視野の狭さを痛感しました。

労協の理念や目的を語ることで、労協運動が時代の要請に応え、地域に求められていることも出会う人たちが賛同することで改めて教えられましたし、逆に勇気付けられました。様々な市民にも受け入れられる労協運動の可能性が広がり行くことを感じました。

人と出会うことの楽しさ、協働の輪が広がっていく実感、それらはやはり自分自身が目的をもって、一歩足を踏み出すことから始まります。

今回のシンポの成功は、実行委員の活動もさることながら、様々な人の協力が得られ人の輪が広がったからこそであり、私たちの予想を超える市民が参加した集会になったと思います。

「まちづくり・仕事おこし」を考える盛岡市民集会